

2016 年度年報

公益社団法人 高知県自治研究センター

目 次

「2016 年度年報」の発行にあたって

1. はじめに	P2
2. シンポジウム・セミナーについて	P3
3. 調査・研究活動について	P13
4. 組織運営について	P18
5. 2016 年度収支報告及び監査報告	P20
6. 高知県自治研究センター2016 年度会員名簿	P27

「2016 年度年報」の発刊にあたって

1. はじめに

2016 年度は、2015 年度よりスタートした連続シンポジウムである「少子化の流れに抗して（第 5 回～第 7 回）」、もう一つの連続シンポジウムである「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ（第 6 回）」、哲学者・内山 節氏によるセミナー「トランプ大統領はなぜ求められたのか？その未来」を開催した。

また、調査研究活動では、「高知の介護保険地域ケアシステムの実態調査研究」については、前年に引き続き、研究チームの座長でもある高知県立大学社会福祉学部田中きよむ教授を中心に最終の研究チーム会議を開催した。そして、調査結果の報告会を実施するとともに、結果を基にしたシンポジウムを開催し、本調査研究活動は一定の到達点に達したことから、2016 年度を持って事業を終了することとした。

一方、「高知市における中心市街地再生のための施策についての研究」については、議論を進める中、進捗が止まったことから研究チーム会議はいったん中断をし、コアメンバーにて今後の研究の方向性について議論してきたが、議論だけではなく、具体的な実践を模索する中で形と方向性を見出していくことが求められているとの結論から、センターの研究テーマとしてはいったん休止することとした。また、「中山間地域における内発的発展地域産業モデル研究」については、具体の進展には至らなかった。

研究調査活動について、2 本が終了および休止となったことから、自治研究センターでの新たな研究を行うことが必要であり、事務局としても、理事会での協議を深めながら、センターの活動基本である「地域に貢献できる研究」の早期の着手に向けて、精力的にとりくんで行かなければならない。

2. シンポジウム・セミナーについて

(1) まず、各シンポジウム及びセミナーについて概略を記すと、連続シンポジウム「少子化の流れに抗して」については、

〈第5回〉「競争ではなく共創する『地方創生』」

2016年7月30日（土）開催

〈第6回〉「人口減少時代に求められる『価値』と『豊かさ』」

2016年9月24日（土）開催

〈第7回〉「高知を『地方創生』実現の先駆けに」

2016年12月3日（土）開催

の全3回を開催した。開催の企画にあたっては、当センター理事および外部識者による「企画会議」を事前に実施し、シンポジウムごとのテーマ設定や講師・パネラーの選定等について助言を受けながら、以降事務局で全体を構成することとした。各シンポジウムでの概要および参加者の感想は以下のとおりである。なお、当日の講義録は、冊子にまとめて当センターのホームページに掲載してあるので、詳細についてはそちらをご覧ください。

【第5回】2016年7月30日（土） 於・高知城ホール

テ ー マ：競争ではなく共創する「地方創生」

基調講演：片山 善博（慶応義塾大学法学部教授、元総務大臣、前鳥取県知事）

鼎 談：片山 善博

上 治 堂 司（馬路村村長）

コーディネーター：中河 孝博（高知新聞社論説委員）

要 旨

片山氏は、安倍政権の「地方創生」について、着眼点は良いが、効果が上がっていないと指摘。地域の人口減少を防ぐには地域外へ流出するお金を少なくするべきだとし、地元企業が、デザインやマーケティング、ブランド力を持つことが大事であり、一朝一夕には無理でも人材育成を図っていくことが真の地方創生に必要な1つの分野だと示した。

また、現在の地方創生は、いたずらに地域間の競争をあおっている面があり、本来自治体は隣近所で競争するものではないとし、一つの例として「ふるさと納税」制度をあげ、自治体で競い合うことにより、自治体が疲弊していき、また、商品価値の下落により日本経済も衰退していくとの見解を示した。



《参加者アンケート》

① 第1部 基調講演について

- ・仕事の内容と直結する部分もあり、とても広く視野を持ってました。
- ・別の視点での見方、考え方について勉強になりました。
- ・具体的な事例を示しながらのお話は、大変解りやすかった。
- ・具体的でわかりやすい言葉で話されて、理解できました。
- ・メディアに扱われない視点が聞け、新鮮で大いに参考となりました。特にT P P。
- ・「共創」にかかる部分の話がもっと聞けるとよかった。
- ・自分の回りのことから世界まで幅広い話が聞けてよかった。
憲法やT P Pについて改めて考えさせられた。もう1度読みかえすことにする。
- ・時間の関係で、1部だけとなりましたが、大変参考になりました。
- ・片山さんのお話は筋が通っていて理解しやすかった。
具体的な数や経験に基づいた内容には説得力があり、今後の参考にしたいと思った。
- ・何十年ぶりの勉強会に参加（いや初めてかもしれない）して、地方の事、地域の事、忘れかけていた事が、よみがえった様な気になった。今一度「地方創生」について考えてみようと思った。
- ・とてもわかりやすいお話で、すっきりと気持ちに入ってきた。
- ・合区は憲法違反、T P Pにおける「I S T」の危険性について勉強させられた。
- ・知事としての実践と研究者としての豊富な知識が語られてよかった。
もっとお話しを聞かせてもらいたいと思った。
- ・地域の衰退を分析し、そこから対策を考えることが、地域活性化のスタートだと感じた。
行政が地域の金の流れを分析し、地域のお金の流れを少しずつでも作っていくことが必要。
- ・ふるさと納税に対する片山さんの考え方は共感できる。
地方の経済的自立が困難な状況下で、霞が関に頼らざるを得ない仕組みをかえる。国は短絡的な経済支援でなく、経済的自立支援に力と金と人を注ぐべきだと思う。
自治体間競争に関する懸念は、随分以前から言われていたが、表面的な政策ばかり評価することなく、その政策により何をどこへ誘導しようとしているのか、という政策誘導力の評価をすべき、金がすべてのような政策議論ばかり（福祉も教育も行革も）なので自治体間競争を余儀なくされている現状をかえていくことが必要。
- ・自治体が競争をする社会になってしまった。
アベノミクスは自治体をどうしたいのだろうか？
一体どこへ向かおうとしているのか!?!わからない!!
- ・なかなかホンネの話で良かった。鳥取県知事をして実務経験からの話は、たくさんのヒントがあった。
地産地消・地産外商・自前のエネルギーを持つ事。
お金が入る仕組みを作っていくと、雇用もついて来る。
国のする事は、ほとんどピントがずれている。
競争でなく共創、いい言葉。ふるさと納税のからくり、なかなか深刻、憲法は権力者にタガをはめる事。いい言葉!! 少数者を守る。
- ・「地方創生」とはいえ、国に振りまわされている感じがあったので、何か違うというお話で非常に面白い話でした。

もう少し長くお話しを聞きたかったです。

- ・公共事業の地域経済への効果についての話が分かりやすく興味深かったです。

② 第2部 鼎談について

- ・国の話と馬路村などの行政の話など、興味深かったです。

ふるさと納税の光と闇など、どちらが正しいのか分からなくなる部分もありました。

- ・意見交換により、より論点が深まり良かったです。
- ・特効薬はない。地道な活動しかない。心にとめます。
- ・馬路村の貴重なお話、興味をもって聞くことが出来ました。
- ・地方知事、地域村長の実話が聞けた。
- ・コーディネーターがイマイチだった。
- ・本音がぶつかり合うよい会であった。2人の将来を見据えた考え方が聞けてよかった。
- ・中河さんのまとめもうまく、上治村長の話もおもしろく聞けた。
- ・馬路村の努力には頭が下がる。頑張っているなと思う。
村長さんの話が片山さんより分かりやすかった。

- ・ふるさと納税、昼間人口（通勤者が多い）について、お二人のやりとりがあって、問題点が深まり勉強になった。おもしろかった。

- ・県内34市町村の内24が消滅する→消滅はしないと思う。

地方創生は、霞が関の片寄った考えだ!!先駆的な事業は、なかなか思いつかないだろう。

地元の意見を聞いてほしいと思った。

地元でお金を使うようにしようと思った。

ふるさと納税はいつかなくなる。本当の価値が返礼品に見えてこない。

- ・現場至上主義なのに、国からは机上の空論が押しつけられる。

ITの登場で、都会と田舎のギャップが無くなった。

移住者を増やす。

広域的発想と時間軸に対する考えを少し変える。なかなかいい発想。少しずつ、地元の物を使う。少しずつ外に出さない。行政がかえって地元つぶしをしている。いいアドバイス!!

- ・馬路村長の話は、市町村の意見の代表だと感じました。

ふるさと納税についても、やらざるをえない流れも実感しています。

生産、開発、販売を地域内でやれるのが理想ですが、なかなか難しいのも実感していますので、また参考になるお話を聞きたいと思います。

- ・ふるさと納税については、納税した人の6割くらいしか税の控除を受けていないと聞きました。ふるさと納税は、馬路村村長さんと同じ意見で、今だけの特需だったとしても、地域の産業振興のきっかけとして生かしていけたらいいと思いました。

コーディネーターとパネリストの席がすごく離れていたのは、何か理由があるのでしょうか？バランスが悪い気がしました。

③ シンポジウム全体について

- ・良かったと思います。
- ・内容の濃いシンポジウムで、有意義でありました。ありがとうございました。
- ・実体を知る事ができた。勉強になりました。

- ・参加者が少ないのがもったいないと感じた。
- ・非常によかった。生の声がきけてよかった。
- ・全体的な流れは良かったが、空調など不満を述べる方も周りにいた。
また、最後の参加者からの口頭での質問は許すべきではないのではないか？
- ・「ふるさと納税」の仕組みがまだ1つ分からなかった。
私も馬路村（村長さんの意見に賛成です）
- ・大変勉強になりました。
- ・席全部がうまっていたら、もっと良かったですね。
- ・様々な話が聞けたよかったです。
- ・いやーあ、期待の200%の講演会でした。目からうろこだけでした。アンテナは360度はっておかないといけないな!!
- ・もう少し長く講演を聞きたかったです。
午前の部、午後の部でもいいかなと思いました。
- ・共創の「地方創生」という切り口でしたが、もう少し、共創の事例など、明るく前向きな話を聞きたかったです。
- ・自治体の職員です。大変参考になる話を聞かせていただきありがとうございます。地方創生の担当ではありませんが、今回の話の中の「ちょっとでもお金が出て行かないように、お金が入ってくるように」を自分の業務の中でも考えていきたいと思えます。

【第6回】2016年9月24日（土） 於・高新文化ホール

テ ー マ：人口減少時代に求められる「価値」と「豊かさ」

基調講演：草郷 孝好（関西大学社会学部教授）

パネルディスカッション：

パネラー 草郷 孝好

川村 幸司（れいほく田舎暮らしネットワーク事務局長）

吉澤 文治郎（土佐経済同友会代表幹事）

コーディネーター 東森 歩（自治研究センター理事）

要 旨

草郷氏は、2000年代前半にかけ、GDPが右肩上がり一方で、同時期の生活満足度を示す数値は徐々に下降していることを内閣府の調査をもとに紹介。その上で、経済成長に幸福を求めるのではなく、質的に豊かな社会への転換が必要であると、それに向けてどんな社会を構築していきたいか考えていくことが必要であると指摘した。

また、地域づくりの事例として熊本県水俣市の事例を紹介し、水俣市でのとりくみを行う中で、住民自身が地域に「あるもの」に気づき、自分たちで何とかして行こうと変わる重要な転換点になったことを解説した。



《参加者アンケート》

① 第1部 基調講演について

- ・高知市政、草郷さんをアドバイザーとして、地域社会づくりに取り組んでいただきたいと思います。
- ・講演で15分も伸びるのは、問題外！結論が分かり難い。
- ・資料もあり、とてもわかりやすい御講演でした。
- ・わかりやすい言葉で良かったです。印象の言葉で、「経済的豊かさの恩恵に手痛いリスクがある。この言葉は重い、原発しかり。
社会を動かすのは人と人を通じと協働する力。そのとおりと思う。
- ・内容的には一般化された情報かと思われたが、講演構成としては分かりやすい。気持ちのいい講演であった。それは実践からの話であることの結果かもしれない。

② 第2部 パネルディスカッションについて

- ・吉澤さん（ひまわり乳業）の山羊乳に期待しています。
山羊乳は幼少時のタンパク源であると共に、山羊がレンゲ畑で喰む風景はGKHそのものです。山羊のチーズも濃厚なので美味です。
- ・川村さん、2年前に土佐町の棚田の実りに感動しました。遠くの稲田は、まるで菜の花畑が山の上まで続いているようでした。湯毛（あか）牛の飼育も見せていただき、肉のファンにもなりました。棚田の風景を多くの人達に見ていただきたいですね。
- ・個人々の話は、興味深い話が多かったが、全体のテーマとの関連が分かりにくかった。
- ・もう一人増やして、女性にも入ってほしかったですね。
- ・草郷さんが話す時、正面でなく、横に話しかけるような話し方は、聞く方の意識がうすれると思う（申し訳ありません）
パネルディスカッションは、いろいろ面白い話しが聞けて楽しかった。
- ・人口減る中、お話しを伺いながら、高知の豊かさは「人」だと思いました。
今、行政では、「道の駅」とか「新幹線を四国に」と相変わらずインフラに頼って、経済的な豊かさを追いかけている気がします。
やはり、住んでいる自分たちが楽しいとか、安心できるまちにすることで、高知の価値を作っていけたらと思いました。
高知で新しい価値をつくることができると、楽しいなと思いました。
- ・議論に広がりがあったが、まとまりがない。
- ・パネラーはこのメンバーでよかったが、もっと行政関係者も入れたら。当事者意識があれば、行政関係者の積極的な参加も必要かと思います。

③ シンポジウム全体について

- ・勉強させていただきました。
- ・参加者が少ないのが残念ですね。
- ・質問の受付が基調講演の直後であり、基調講演に対する質問をパネルディスカッションで発表するのは少し違和感を感じる。
- ・私は県外から移住し、結婚をし、子供をさずかり早5年。もともと風の人だったのに、土の人になりつつあるのかなと感じました。けれど、土佐の土になりきれないわけでは無いのだろうとも感じました。高知の魅力にそまり、私のように住みついてしまう世代が増えていくこ

とを願います。

- ・自分たちが楽しむことから始めないと、少子化もとめられんと思います。本日はありがとうございました。
- ・こんなにすばらしい講演会ですので、参加者をもっと増やしたいですね。次回は友人に早く声をかけてお誘いします。
- ・少子化について…少子化が今、一番の問題と思っています。息子が、中学校か高校の時、担任の先生が「子供は3人は育てるように!!そうしたら親の苦勞がわかる」と話しをして聞かせたそうです。我家は孫3人ずつ育っています。
- ・昨日は「働き方を変える」という話を聞いたところだったので、東森さんの「お正月3が日は定休日にする」というお話を聞いたとき、働きすぎる今の働き方を変える先進地になったら、ワーク・ライフ・バランスに敏感な都会の人には、新たな魅力にならないかなと感じました。
- ・後半はすこし重たい感じがした。
- ・市場規範、社会規範。

【第7回】2016年12月3日（土） 於・高知商工会館

テーマ：高知を「地方創生」実現の先駆けに

基調講演：大森 彌（東京大学名誉教授）

パネルディスカッション：

パネラー 大森 彌

上野 伊代（須崎市浦ノ内地区・地域コーディネーター）

公文 直樹（香美市定住推進課主幹）

竹葉 傳（四万十市・株大宮産業取締役）

コーディネーター 中河 孝博（高知新聞社論説委員）

要 旨

大森氏は、若年女性の減少動向から、2040年までに全国の市町村の半分が消滅する可能性があるとは指摘した通称「増田レポート」に関して、人口減少だけで市町村は消滅しないと指摘。田園回帰の流れが強まっている状況などから、人口が減っても自治を放棄しないと決心している首長、議会、住民がいれば、その自治体はあり続けるとの考えを示した。

また、平成の市町村合併における都道府県の役回りを、国の先兵のように働いたと指摘し、都道府県は市町村を指導する役割ではなく、市町村の足りないところを補い、役立ってこそ存在意義があると強調。高知県で力を注がれている集落活動センターのとりくみを評価し、新しい関係づくりに期待を寄せた。



《参加者アンケート》

① 第1部 基調講演について

- ・人口減少の構図と時代、社会的な変化による未婚化、晩婚化の状況について改めて学ぶことが出来た。
結婚生活に対する良いイメージを後輩世代に伝える必要があると感じた。
- ・ありがとうございました。
この成果集の冊子は、県立図書館や市民図書館へ納本されるのでしょうか？とても素晴らしいので、お願いします。
- ・自治を放棄しない限り、自治体は消滅しないとのことで、大変力が湧いてきた。
若い世代が、県外大学から帰ってくるような、また、Iターンが増えるような魅力的な地域にしていきたい。
- ・色々なお話、興味深く、とても勉強になりました。
- ・講演者にマイクの状況を教えていかないと非常に聞き苦しく残念。

② 第2部 パネルディスカッションについて

- ・ポジティブな成功策や移住対策、小さな拠点づくり、集落活動センター等のたくさん話が聞けて勉強になった。
今後の地域行政に生かしていきたい。
- ・各々の土地で活動しているお話、このような方達が我町にも欲しいと思いました。

③ シンポジウム全体について

- ・この企画を私は友人から聞き、初めて参加できました。
会報活動はどのように？
もっと多くの方に参加して欲しかったです。
- ・コーディネーターさんは、マアア、マアアの言葉が耳ざわりです。高新解説者の方、もう少しはぎれよく、まとめたコーディネートしてほしかった。なにか、もたもたして、ここぞという課題追求ができないのか、本当に残念。

【高知県への政策提言】

連続シンポジウムとして、2015年度から全7回を開催し、シンポジウムを通じて、学び考えあった内容を基に、高知県における少子化対策についての政策提言を行うため、提言内容を協議していく検討会を立上げ、2016年度は2度を開催した。

- (2) もう一つの連続シンポジウムである「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ（第6回）」については、2017年3月19日（日）に開催した。今回は、テーマを「防災を通して学ぶ 新しい時代の生き方とまちづくり」として、防災と学校教育をポイントにおき、岩手県での震災後の復興教育、和歌山県での防災教育による人間教育などについて報告していただき、引き続いてさらに議論を深めるためにパネルディスカッションを行った。概要は以下のとおりである（詳細は当センターHPに収載）。

【第6回】 2017年3月19日（日） 於・高知城ホール

テーマ：防災を通して学ぶ 新しい時代の生き方とまちづくり

講演：森本 晋也（岩手大学大学院教育研究科准教授、岩手大学地域防災研究センター兼任）

林 宣行（和歌山県串本町立古座小学校教諭）

パネルディスカッション：

パネラー 森本 晋也

林 宣行

松本 敏郎（黒潮町役場情報防災課長）

コーディネーター 畦地 和也（黒潮町役場・自治研究センター研究員）

要 旨

岩手大学准教授の森本氏と和歌山県古座小教諭の林氏から、それぞれのとりくみについて講演いただいた。森本氏からは、東日本大震災後、学校に通う子供たちの姿が大人たちの心の支えになってことが紹介された。岩手県では、「いきる」、「かかわる」、「そなえる」の3つのテーマで教育を進め、子どもたちが自ら「何ができるか」を考えるようになったことが説明された。また、防災訓練に学校が関わることで、若い人が訓練に参加するようになったとし、復興に向けて支えになるのが子どもたちが頑張る姿であると示した。

林氏からは、「防災の授業を恐怖の授業にしてはいけない」との助言のもとに、ご自身の勤務した小学校において、津波のおそれのある海からは魚介類、地震の被害を増幅させるやわらかい土壌からは農作物など、豊かな恵みを受けていることも教えていることが紹介され、地元を好きになる授業が大切であることを強調した。



《参加者アンケート》

① 講演1「いわての復興教育ーいきる・かかわる・そなえるー」について

- ・子供達が思う故郷里と、防災に対する考え方と防災教育が良かった。
- ・非常に興味深い実例をたくさんお聞きしました。今後の実践に向けて、考えてみたいと思います。災害伝言ダイヤルの家庭での実践。生徒自らの総合防災訓練。石碑を木碑へという実践など、すばらしい取組みであると感じました。ありがとうございました。
- ・2つの講演、①被災後の教育、②は被災前の教育。①の話では、復興教育が子どもにふるさとへの想いを育てていることを知ることができました。防災が、地域で子どもたちを見守るしくみにつながった話も興味深かった。
- ・てんでんこについて質問したものです。事前に家族で話し合うということは理解できました。が、1人住まいの高齢者や身障者をてんでんこから、どう守るのか？津波避難想定内であれば、できるかぎりのことするのか？想定は信用するなどと言いますが。
- ・細かですが、募金しました。微力かもしれませんが、何か手助けになる事をしたいです。皆が良い方向に助け合って、協力して、仲良く…復興出来たらいいですね。良いお話を

沢山、聞けました。有難うございました。

- ・石碑を木碑にかえる子供達のオリジナリティーのすばらしさと頭の柔軟性の話をきき感心しました。
- ・釜石の子どもたちの行動、言動にはあらためて感動した。その教育を粘り強く継続している先生にも感服。森本先生の話に涙が出そうになってしまって…。

② 講演2「地域を好きになる防災教育ー子どもたちが地域をつなぐー」について

- ・地域愛がなかったら、防災力が弱い。防災力が強い所は、郷土の祭り等が、防災力が高い。その事が防災への歩み出来る。地域の自然の良さ等、地域愛を育てる事の大切さが良く判った。家族を入れたマップ作りも参考になりました。
- ・自分の地域を好きになる防災教育の大切さが良くわかりました。防災訓練という恐いもの、いやなことというイメージを持ちやすいですが、特に子供達に対しては、十分に配慮する必要があるなど改めて思いました。ありがとうございました。
- ・②では、防災教育を通じて、地域のよさを伝えていることを知りました。防災教育の推進が、他のいろんな教育課題へのとりくみにもなるというのは、やはり防災が、命と地域を学ぶ教育だからだと思いました。
- ・はじめて、小学校の先生の講演を聞きました。小学校内の防災教育について目える化がもっと広まればと思いました。
- ・地域の伝統行事も大切ですね。防災に役立ってます。有難うございました。日本もいい所が沢山ありますね。(ボランティア等で) お勉強になり、又、良いお話を聞けました。
- ・大変具体的なVTRをみせてもらって、感動致しました。
- ・純粋な子どもたちだからこそその防災教育の大切さ、地域とのつながりを具現化する方法、大人としての自覚、様々なことを学ばされた。

③ パネルディスカッション

「防災を通して学ぶ新しい時代の生き方とまちづくり」について

- ・私達の町では毎年12月第3日曜日に早朝避難訓練を実施していますが、避難所がない地区なので、民間の保有する高い建物に避難する事にしている。その避難先に避難袋を置いている。避難場所等をSNSでアップしている(NHK防災マップ)では、高知県では我が町だけです。
- ・パネリストを悩ませるコーディネーター。すばらしいと思います。良くパネルディスカッションを見ますが、皆で考える。作り上げる姿勢が大切だと良くわかりました。ありがとうございました。
- ・「心の教育」を日頃(被災前)からやっておくことが大切、という視点は、今回はじめて聞いたので、ぜひ今後の教育にとりいれてもらいたいと思った。その教育があれば、将来の災害への備えにもなるし、就職後のストレスとのつきあい方もうまくなり、メンタルヘルス不全も少なくなるかもしれない。
- ・防災については大人より子供たちの意識が高いことが確認できました。津波避難コースを子供たちのためにシールをはっておく。いいね。
- ・被災地の方々が、不便なく、何不自由なく、安心して暮らせたらいいですね。自然災害がない様に願います。
- ・皆様方の意気込みのすばらしさがひしひしと伝わり良かったです。

- ・黒潮町の「防災文化」を進める政策は住民の意識改革、町職員の気力、体力、財政、課題などハードルを相当高いと思うが、すばらしい町づくりにつながると思う。大工を本気にさせる講演会はおもしろい。海の恵みと災いをセットで教えることの重要性がよくわかった。
- ・もっと地域と学校が近い存在でなければならぬと改めて感じました。

④ シンポジウム全体について

- ・色々の避難に対する教育や取り組みについて学ぶことが出来ましたが、早い情報を取れる対策が必要だと思います。津波避難マップを作ると同様に各町内の家に避難家が有る子供達と一緒に避難してくれる家が有る事が良かった。私達の町では各災害に対して避難情報が出た場合に避難場所に国際信号旗を掲揚する様にしている。
- ・非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・教育関係の方にもっときいてもらいたかった。(どのくらいいたのか分かりませんが…) 1人の講演時間は50分くらいでよかったのでは？松本課長の話がシンポジウムにいい印象となり残念です。
- ・ひとり住まいの高齢者、身障者の自宅に子どもたちといっしょに防災訓練等を話しに行くといいかなと思いました。あたりまえの地域をつくる。
- ・大変参考になりました。
- ・私自身も地域の自主防災組織の役員を担っているが、まだまだ意識が低いことを痛感。非常に勉強になったシンポジウムだった。
- ・今日は、防災教育について、岩手県、和歌山県、黒潮町での大変考えさせられるお話が聞けました。避難訓練も最近参加してなかったりしたので、家族でも話をして、参加していきたいと思いました。
- ・いい話ばかりでしたので、もっとたくさんの人に参加してもらえればと思いました。先生の都合もあったかとは思いますが、3連休の中日はきびしかったかなと思います。地元紙で大きくとりあげてもらってください。

- (3) セミナーについては、毎年講師をお願いしており連続で7回目となる、哲学者の内山節さんを今回もお招きし、「トランプ大統領はなぜ求められたのか？その未来」との演題で講演していただいた。概要は以下のとおり（詳細については当センターHPに収載）である。

【内山節セミナー】 2017年3月7日（火） 於・高知共済会館

テマ：トランプ大統領はなぜ求められたのか？その未来

講師：内山 節（哲学者）

要 旨

内山氏は、「戦後、先進国は富の独占を当然とする仕組みを作り上げたが、途上国・新興国の台頭によりそれが崩壊し、その中で先進国の中から苛立ちや、強い力を使って元に戻してくれ、強い政治家たちが出てくれば、問題を解決してくれるのではないかという願望があり、そこで自国第一の国作りになびいていく状況になっていると言える。」との見解を

示した。

また、エコ・ヴィレッジ作り（＝持続可能な地域づくり）における韓国のタムヤン群と富山県南砺市との協力関係に触れながら、先進国の富の独占が崩れ、苛立ちなどから強い政治家が求められる一方で、同じような課題を抱えながらこれからの社会をもう一度作り直そうという動きも存在していることを示しました。

さらに、国の必然性についても、日本の歴史などを例に、必然性はなく、たくさんの矛盾を抱えているが、これまでは先進国による富の独占などにより問題点が表面化しなかったが、今は表面化し始めた時代に移ってきたと指摘。最後に、今の時代はいろいろな意味で分解が進んでいる中、新しい時代を作る面もあり、非常に困った時代に向かっていく動きもあり、今はそういう時代だと思えるしかないのではと締めくくりました。



3. 調査・研究活動について

(1)「高知の介護保険地域ケアシステムの実態調査研究」では、高齢化社会の到来にともなう介護問題の解決には、介護保険制度だけで対応することは不可能であり、これを補完する仕組みを含めた地域におけるケアシステムが必要であるとの考えから、現行の介護保険制度の問題点を浮き彫りにすることを目的として、2014年から2015年にかけてアンケート調査を実施し、回答の集約結果をもとに、研究チーム会議を開催して結果の分析を行うとともに、どのような形で公表するか、さらには政策提言のような形にまで持っていくことが可能か否か等についての議論を行ってきた。

① 研究体制

研究員	田中	きよむ	(高知県立大学 社会福祉学部教授)
	後藤	由美子	(高知県立大学 社会福祉学部准教授)
	戸田	靖	(高知市介護保険課)
	中山	順子	(中土佐町健康福祉課・地域包括支援センター)
	津野	美由紀	(中土佐町社会福祉協議会・デイサービスセンター)
	濱野	安一	(前高退連事務局長)
	折田	晃一	(高知県自治研究センター副理事長)
事務局	石川	俊二	(高知県自治研究センター)

② 活動経過

5月16日(土) 第13回研究チーム会議<自治労会館>

③ シンポジウム

研究チーム会議の協議の結果、アンケートの集約・分析結果を報告会として公表するとともに、これを基にしたパネルディスカッションを行うこととし、7月24日（土）に高知県立大学永国寺キャンパスにおいて、「どうなる？どうする？高知の介護と高齢者の暮らし」と題したシンポジウムを開催した。概要は以下のとおり（詳細については当センターHPに収載）である。

【シンポジウム「どうなる？どうする？高知の介護と高齢者の暮らし」】

2016年7月24日（土） 於・高知県立大学永国寺キャンパス

アンケート結果分析報告：田中きよむ（高知県立大学社会福祉学部教授）

パネルディスカッション：

パネラー 北村 綾（高知県地域福祉政策課チーム長）

岡林 輝（土佐市長寿政策課長）

佐藤 政子（認知症の人と家族の会高知県支部理事長）

眞明 将（(株)アクトワン代表取締役）

コーディネーター 田中きよむ（同上）

要 旨

田中きよむ氏よりアンケートの分析結果についての報告を行ったのちに、4名のパネラーを迎えてのパネルディスカッションを行った。

パネルディスカッションでは、まず4人のパネラーから分析結果についての感想や意見をいただき、その後それぞれの立場・所属でのとりくみ内容について説明をいただいた。

説明の後は、パネラー同士の意見交換、フロアからの質疑・応答を行い、最後にコーディネーターである田中氏が、高齢者の方にとって安心できる街づくり、地域づくりというのは、①制度的な問題、課題に対して当事者の実感を踏まえた批判や提言を国に届けること、②住民が不安に思っていることに対して市町村がしっかり責任を負う、③地域での住民と一緒にあったとりくみ、この3つの次元での歯車がかみ合うことが必要ではないか、そしてそれによって本当に住民、高齢者にとって安心できる地域づくりになるのではないかとまとめた。



① 第1部 報告について

- ・ 自宅で最後まで暮らし続けたい。続けられる体制づくりが大切であるとあらためて思いました。
- ・ 高知県内から、多くの介護保護に対する意見を読みとることができた。
大変有意義なアンケート調査を行ったと思う。
- ・ 安心・安全な医療や介護の仕組みが必要だと思う。
- ・ アンケートの規模は、今後の高知の介護を考える上で非常に貴重でしっかりとした内容

あるものだったと感じました。アンケートを行うにあたっての問題意識・目的が明確であったので、価値あるデータが得られたのではないかと思います。この結果を踏まえ、日本全体の中の高知の介護の位置、自分達が今どんな状況下にあつて、どんな危機感を持たねばならないか等も報告頂けるとよかったかと思います。

- ・ 詳細なアンケート内容にびっくりしました。今後の高齢者福祉の活動に生かしたい。
- ・ どの高齢者も同じような回答だったように思いますが、ただ、地域との関わりで、差があったように感じました。
- ・ 孤立、孤独 etc 言われますが、自ら閉ざすこともあるかと思います。地域に役割がなければいけないでしょう。〇〇があるから行く＝自助と思います。
- ・ 詳しく報告していただき、県内の要介護高齢者及び一般高齢者の人々の状態が分かった。ないものねだりだが、介護をしている家族の方への調査が加わるとさらに課題がはっきりするように思う。
- ・ 大変興味深く拝見しました。第2部の真明さんがサロンに男性が来ないと言われている男性世話人に言及されていたこととかかわりますが、女性はより施設入所を希望し、男性はより自宅で家族等による介護を希望するし、できると思っっているというデータは、何故そのような回答が出てきたのか知りたいなあと思いました。それがジェンダー的なもの文化的につくられたものであれば、それは高齢者に限定される問題ではなく、もっと手前から変化を生んでいかなければならないかと考えさせられました。
- ・ 今後、あつたかふれあいセンターへの集まる方（期待として）一般、支援、要介護 1,2の方を想定して考えて頂くと、嬉しいかなど。
住まいが持ち家である方がほとんどを占めているが、階段や段差が苦勞する。それも行動を狭めているかとアンケート結果を見ながら感じたところ。
- ・ 非常に細かく内容を分析され、利用動向と意識について報告された事に、大変興味を持ち拝見しました。
自分も前期高齢者になり、身につまされて、生活の事を考えています。
健康で、自宅で、最後を迎えられる様にならば行きたいです。
- ・ 最後は自宅で支援必要になっても在宅で生活したい希望が多い事、又、健康について、地域活動についても男女差がある事、家族、子どもに迷惑かけず生活していきたい意向も多い事等わかりました。
- ・ 要支援、要介護者とのその家族のアンケート結果、一般の方は近所との付き合いをする方が 53.6%に対し、介護の方は心身の状態が困難な為か 62.3%
- ・ 詳細な報告、大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 介護を受ける側の認識の調査、全国で高齢化先進県である本県。良い調査報告を聞かせて頂きありがとうございました。
- ・ ポイントが分かりづらい。
- ・ マイクの音が聞きづらい。

② 第2部 パネルディスカッションについて

- ・ 総合事業への移行について、パネラーの方から意見・発言が多かった。決定すれば、大きな改正となり、多くの意見、対応が起こると思われるので、注目していきたい。
- ・ 介護保険のあり方について、あらゆる団体、法人が言葉にだす事により大きな改革の流れを作る必要を考えさせられた。

- ・認知症の人をめぐる厳しくリアルな現状を知ることができよかったです。
2018年に県内ベッドが2,000~3,000床減ったとしたら、介護難民が増えるだろうと思いました。
- ・サテライトの世話人の方が「男性がサロンに来ない」と嘆いておられるのが、どの地域でも見られる悩みと思えました。マシンを用いた筋肉（力）トレーニングは男性へのウケはどのようなのかなと思いました。
- ・行動変容が起こるタイミングを待つというのは、ある意味気長いけれど、内発的な変化が起こるまでの不安への対応はどうされているのか知りたいと思いました。
- ・色々なお話が聞けて、とても勉強になった。
地域、特に山間部では、土・日のデイがない。特養しかショート先がなく、要介護1,2で比較的軽い人にとっての泊り場所がない。（泊まりの利用はできるが行きたくない）あったかふれあいセンターが、多様なニーズの方に利用できる施設となり、各市町村に出来る事を願いたいです。
- ・介護保険の改悪について、大変心配しています。消費税の延期から、やはり、政府は財務省からの圧力が厚労省にかかっていると思います。自民党が第一党になるのは、あぶなく思います。生きていくのが大変になります。
- ・最後まで自宅で生活して行きたい意向あっても、市内ではサービス充実あるが、市外ではそれを支えるサービス不足、又、往診でも片道40分かかる地域環境がある。又、独居での生活できる限度もある。もっと市外での一人生活の現場をみてほしい。現実はや言葉よりきびしいものがある。
- ・各シンポジストからのお話は解りやすくお聞きしました。
- ・田中先生の座長進行がうまくて、質問しなくても、それぞれのパネラーの考え方が理解できました。ありがとうございました。
- ・それぞれの立場での報告、現状の内容が良く分かりました。特に先進地土佐市での取り組みは勉強になりました。
- ・いろんなとりくみ、思いを知る事ができました。
- ・各立場から発言 参考にしたいです。
権利と義務をまっとうすることが大切と思いました。
- ・各方面から詳しく分かりやすい報告があり、実態について、かなり知ることができよかったです。
- ・マイクの性能のため？非常に聞き取りにくいパネリストが複数おられた。
- ・土佐市の課長さんの話、後半は全く理解できず。私の無知のせいかもしれませんが、レジュメだとどの部分を説明されたのでしょうか？せめてレジュメに沿って話していただきたかった。

③ シンポジウム全体について

- ・総合事業が各市町村によって違いがあるものだと思います。
- ・介護制度の説明が少ない為、不安がいっぱい。
そのような中での今回のシンポジウムは大変有意義なものでした。
高知市（行政全体）も詳しい事は市民に十分な説明はしていないので、市から詳しく説明をして欲しいです。だから先行してこの様なシンポをしてもらいたいです。
- ・「これからの介護体制を考える」またどういふことが行われていくか大変なところです

が、全国でのとりくみとして国が考え、行っていく基礎調査となるのかとも思いました。机上で考えているような感じが強い今の体制、変えていける部分があるのか、いろんな団体での共同したとりくみが大事になってくる と…。

これからこの調査から地域で協力したとりくみを始める必要。ありがとうございました。

- ・私自身は、子育て、少子化問題を調べています。ケアの仕事、福祉という点で共通し、高知県下の状態を知ることができるのではないかと思います。参加させていただきました。子育てとは違いもありますが、地域毎の努力・工夫、「あったかふれあいセンター」（小学生の居場所のことなど）のことなど色々なヒント、情報をいただき参考になりました。異なる立場から、共通する面について議論するパネルディスカッションは、参加者全体にも大きなプラスの効果があるように思います。私自身も力をいただきました。制度改悪の危惧される時期に丁度マッチした企画だったと思います。教員として福祉分野へ進みたい学生を指導することも多く、今日得た知見や参加者の前向きな気持ちを学生達にも伝えていきたいと思っています。また子育て支援は、介護に比べとりくみが全体として遅れているようにも痛感しました。少しでも状況を改善していけるよう自分なりに努力していきたいと思っています。
- ・地域で在宅で暮らすには、準備しなければならないことが多く、2018年までの時間は少ないですが、このシンポジウムのような場が開かれること、様々な立場の人が、現状やその背景を話し合える場があることは意味が大きいし、アンケートの結果は、とても貴重なものと思いました。ありがとうございました。
- ・今後の取り組みに大きな期待があります。住民のニーズをしっかりと捉えてくれている様に思いました。制度が変わり過ぎて、皆ついていけません。けれど、介護保険サービスがあって助かっている事も事実です。
- ・シンポジウムに参加して、大変良かったです。現状をよく見られました。本人、家族の気持ちが尊重される介護保険でなければいけないと思います。今日はありがとうございました。
- ・胃ろう、経鼻栄養、喀痰吸引、必要な方が保険施設入所（特養ホーム）できない場合、どこで見るのか。介護療養病床 平成30年廃止なるが介護受ける施設を県としても、もっと努力してほしい。
- ・非常に深い内容と思いました。ありがとうございました。
- ・田中先生のまとめは、とてもわかりやすかったです。
- ・やや内容が難しい研修会ではあったが、大変有意義なシンポジウムだったと思う。
- ・会場が寒かった。
- ・将来的な方向が不明。高齢者ひとりひとりの生き方についての説明が不十分。だからどうすべきか、もっと説明が欲しかった。

(2) 「中山間地域における内発的発展地域産業モデル研究」については、実施に当たって、高知銀行地域経済振興財団との共同研究とすることおよび学識経験者の助言を受けなが

ら進めることとしていたのだが、着手を図ることが出来なかった。

- (3)「高知市における中心市街地再生のための施策についての研究」については、これまで、高知大学・鈴木啓之教授を座長とする研究チーム会議で議論を行いつつ、2011年12月に加賀野井地区、2012年1月に新屋敷2丁目において住民アンケートを実施し、アンケートの集約作業を行い、研究対象地区を新屋敷2丁目に決定してきた。研究チーム会議にて、対象地区の抱える固有の課題や問題点等に焦点を当て、それらの課題解決方策の検討を行う中で、施策の優先度や選択肢の議論の段階で進捗が止まり、研究チーム会議はいったん中断し、コアメンバーで今後の研究の方向性等について改めて再構築の作業を行ってきたが、議論だけではなく、具体的を模索する中で、形と方向性を見出していくことが求められているとの結論から、自治研究センターの研究テーマとしてはいったん休止をして、社団法人等での事業化を図ることとし、自治研究センターとしては、状況を見ながら、必要となれば、再度の研究を行って行くこととした。

4. 組織運営について

(1) 2016年度定時総会の開催

- ① 日 時 2016年6月4日(土) 15時00分～16時30分
- ② 場 所 自治労会館3階会議室
- ③ 出席状況 会員総数74名(団体会員28名、個人会員46名)中
出席68名(団体会員27名、個人会員41名)
うち書面表決書4名(団体会員3名、個人会員1名)
委任状40名(団体会員16名、個人会員24名)
- ④ 議 事 第1号議案 2015年度事業報告
第2号議案 2015年度収支報告及び監査報告
第3号議案 任期満了に伴う役員改選(案)について

(2) 理事会の開催

- ① 2016年度第1回理事会
 - ア. 日 時 2016年5月14日(土) 13時00分～14時10分
 - イ. 場 所 自治労会館
 - ウ. 出席状況 理事・監事15名中9人出席
 - エ. 議 事 第1号議案 2015年度事業報告の承認について
第2号議案 2015年度貸借対照表・正味財産増減計算書、財産目録の承認について
第3号議案 新規会員の承認について
- ② 2016年度第2回理事会
 - ア. 日 時 2016年6月4日(土) 16時00分～16時15分
 - イ. 場 所 自治労会館
 - ウ. 出席状況 理事・監事15名中9人出席

エ. 議 事 第 1 号議案 役員等の選定について

③ 2016 年度第 3 回理事会

ア. 日 時 2016 年 9 月 24 日 (土) 10 時 30 分～11 時 30 分

イ. 場 所 自治労会館

ウ. 出席状況 理事・監事 15 名中 11 名出席

エ. 議 事 第 1 号議案 特定個人情報取扱規程 (案) について

第 2 号議案 第 6 回「東日本大震災から高知は学ぶ」シンポジウム
の内容変更について

第 3 号議案 連続シンポジウム「少子化の流れに抗して」第 7 回(最
終回)の対応について

第 4 号議案 2017 年度の新たな調査研究対象について

④ 2016 年度第 4 回理事会

ア. 日 時 2017 年 1 月 28 日 (土) 10 時 30 分～11 時 45 分

イ. 場 所 自治労会館

ウ. 出席状況 理事・監事 15 名中 11 名

エ. 議 事 第 1 号議案 2017 年度新たな調査研究対象について

第 2 号議案 少子化政策提言の検討会のメンバーについて

第 3 号議案 連合高知「高知家で働く若者に伝えたいこと～ホンキ
で大人が考えるシンポジウム」との関わりについて

第 4 号議案 2017 年度シンポジウム・セミナーについて

第 5 号議案 今年度開催予定のシンポジウムについて

⑤ 2016 年度第 5 回理事会

ア. 日 時 2017 年 3 月 19 日 (日) 10 時 00 分～11 時 30 分

イ. 場 所 高知城ホール 2 階「せんだん」

ウ. 出席状況 理事・監事 15 名中 11 名

エ. 議 事 第 1 号議案 2017 年度事業計画 (案) について

第 2 号議案 2017 年度収支予算書 (案) について

第 3 号議案 2017 年度定時総会の日程について

第 4 号議案 2017 年度第 1 回理事会の日程について

5. 2016 年度収支報告および監査報告

貸借対照表

2017 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	1,903,329	2,026,497	△ 123,168
前払金	30,000	0	30,000
流動資産合計	1,933,329	2,026,497	△ 93,168
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	1,988,232	1,644,000	344,232
事業積立預金	0	800,000	△ 800,000
特定資産合計	1,988,232	2,444,000	△ 455,768
固定資産合計	1,988,232	2,444,000	△ 455,768
資産合計	3,921,561	4,470,497	△ 548,936
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	133,268	87,557	45,711
預り金	49,242	61,565	△ 12,323
流動負債合計	182,510	149,122	33,388
2. 固定負債			
退職給付引当金 1	1,789,409	1,479,600	309,809
退職給付引当金 2	198,823	164,400	34,423
固定負債合計	1,988,232	1,644,000	344,232
負債合計	2,170,742	1,793,122	377,620
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	1,750,819	2,677,375	△ 926,556
(内特定資産への充当額)	(1,988,232)	(2,444,000)	(△ 455,768)
正味財産合計	1,750,819	2,677,375	△ 926,556
負債及び正味財産合計	3,921,561	4,470,497	△ 548,936

貸借対照表内訳表

2017年3月31日現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金・預金	1,903,329	0	0	1,903,329
前払金	30,000	0	0	30,000
流動資産合計	1,933,329	0	0	1,933,329
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
退職給付引当資産	1,789,409	198,823	0	1,988,232
特定資産合計	1,789,409	198,823	0	1,988,232
固定資産合計	1,789,409	198,823	0	1,988,232
資産合計	3,722,738	198,823	0	3,921,561
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	133,268	0	0	133,268
預り金	49,242	0	0	49,242
流動負債合計	182,510	0	0	182,510
2. 固定負債				
退職給付引当金 1	1,789,409	0	0	1,789,409
退職給付引当金 2	0	198,823	0	198,823
固定負債合計	1,789,409	198,823	0	1,988,232
負債合計	1,971,919	198,823	0	2,170,742
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	1,750,819	0	0	1,750,819
(内特定資産への充当額)	(1,789,409)	(198,823)	(0)	(1,988,232)
正味財産合計	1,750,819	0	0	1,750,819
負債及び正味財産合計	3,722,738	198,823	0	3,921,561

貸借対照表附属明細書

財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書の記載は省略しています。

正味財産増減計算書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	(347)	(393)	(△ 46)
特定資産運用益	347	393	△ 46
② 受取会費	(2,019,136)	(1,512,000)	(507,136)
正会員受取会費	2,019,136	1,512,000	507,136
③ 受取補助金等	(500,000)	(350,000)	(150,000)
受取民間助成金	500,000	350,000	150,000
④ 受取寄付金	(5,800,000)	(5,800,000)	(0)
受取寄付金	5,800,000	5,800,000	0
⑤ 雑収益	(113)	(539)	(△ 426)
受取利息	113	539	△ 426
経常収益計	8,319,596	7,662,932	656,664
(2) 経常費用			
① 事業費			
事業経費	(7,774,343)	(7,279,463)	(494,880)
給料手当	2,980,910	2,917,436	63,474
退職給付費用	309,809	194,130	115,679
福利厚生費	508,987	497,388	11,599
旅費研究費	252,904	425,268	△ 172,364
通信運搬費	177,482	120,563	56,919
消耗品費	14,727	0	14,727
印刷製本費	1,010,490	845,082	165,408
事務賃借料	405,705	510,991	△ 105,286
諸謝金	1,046,881	733,907	312,974
新聞図書費	28,575	35,456	△ 6,881
研修会議費	1,037,873	999,242	38,631
事業費計	7,774,343	7,279,463	494,880
② 管理費			
給料手当	331,214	324,159	7,055
退職給付費用	34,423	21,570	12,853
福利厚生費	56,551	55,290	1,261
会議研修費	544,971	404,981	139,990
通信運搬費	42,606	41,344	1,262
消耗品費	28,622	41,510	△ 12,888
事務賃借料	174,222	220,375	△ 46,153
支払手数料	259,200	313,200	△ 54,000
管理費計	1,471,809	1,422,429	49,380
経常費用計	9,246,152	8,701,892	544,260
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 926,556	△ 1,038,960	112,404
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 926,556	△ 1,038,960	112,404
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 926,556	△ 1,038,960	112,404
当期一般正味財産増減額	△ 926,556	△ 1,038,960	112,404
一般正味財産期首残高	2,677,375	3,716,335	△ 1,038,960
一般正味財産期末残高	1,750,819	2,677,375	△ 926,556
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,750,819	2,677,375	△ 926,556

正味財産増減計算書内訳表

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
①特定資産運用益	(312)	(35)	(0)	(347)
特定資産運用益	312	35	0	347
②受取会費	(547,475)	(1,471,661)	(0)	(2,019,136)
正会員受取会費	547,475	1,471,661	0	2,019,136
③受取補助金等	(500,000)	(0)	(0)	(500,000)
受取民間助成金	500,000	0	0	500,000
④受取寄付金	(5,800,000)	(0)	(0)	(5,800,000)
受取寄付金	5,800,000	0	0	5,800,000
⑤雑収益	(0)	(113)	(0)	(113)
受取利息	0	113	0	113
経常収益計	6,847,787	1,471,809	0	8,319,596
(2) 経常費用				
①事業費				
事業経費	(7,774,343)	(0)	(0)	(7,774,343)
給料手当	2,980,910	0	0	2,980,910
退職給付費用	309,809	0	0	309,809
福利厚生費	508,987	0	0	508,987
旅費研究費	252,904	0	0	252,904
通信運搬費	177,482	0	0	177,482
消耗品費	14,727	0	0	14,727
印刷製本費	1,010,490	0	0	1,010,490
事務賃借料	405,705	0	0	405,705
諸謝金	1,046,881	0	0	1,046,881
新聞図書費	28,575	0	0	28,575
研修会議費	1,037,873	0	0	1,037,873
事業費計	7,774,343	0	0	7,774,343
②管理費				
給料手当	0	331,214	0	331,214
退職給付費用	0	34,423	0	34,423
福利厚生費	0	56,551	0	56,551
会議研修費	0	544,971	0	544,971
通信運搬費	0	42,606	0	42,606
消耗品費	0	28,622	0	28,622
事務賃借料	0	174,222	0	174,222
支払手数料	0	259,200	0	259,200
管理費計	0	1,471,809	0	1,471,809
経常費用計	7,774,343	1,471,809	0	9,246,152
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 926,556	0	0	△ 926,556
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 926,556	0	0	△ 926,556
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 926,556	0	0	△ 926,556
当期一般正味財産増減額	△ 926,556	0	0	△ 926,556
一般正味財産期首残高	2,677,375	0	0	2,677,375
一般正味財産期末残高	1,750,819	0	0	1,750,819
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	1,750,819	0	0	1,750,819

正味財産増減計算書附属明細書

財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書の記載は省略しています。

財産目録

2017年3月31日現在

(単位：円)

科目	場所等	物量	使用目的等	金額
I 資産の部				
1. 流動資産			1,903,329	
現金・預金				
普通預金	四国労働金庫 高知支店 普通預金 3377677		運転資金として保有	1,903,311
	四国労働金庫 高知支店 普通預金 4024545		運転資金として保有	18
前払金	(一財)自治労会館		家賃の前払い分	30,000
流動資産合計			1,933,329	
2. 固定資産			1,988,232	
(1) 特定資産				
退職給付引当資産	四国労働金庫 高知支店 定期預金 4294390		公益目的事業の退職給付引当金見合い資金として管理している。 法人会計の退職給付引当金見合い資金として管理している。	1,789,409 198,823
特定資産合計			1,988,232	
固定資産合計			1,988,232	
資産合計			3,921,561	
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金			133,268	
	株式会社英光事務機		パフォーマンスチャージ代金の未払い分	48,952
	日本郵便株式会社		後納郵便代金の未払い分	412
	厚生労働省		社会保険料3月分	36,494
	株式会社朝日ネット		プロバイダ料の未払い分	1,620
	N T Tファイナンス株式会社		電話料金の未払い分	6,702
	ヤマト運輸		運賃の未払い分	3,924
	理事		行動旅費の未払い分	16,410
	従業員		残業手当の未払い分	18,754
預り金			49,242	
	従業員		従業員から預かった社会保険料	36,014
	従業員		従業員から預かった雇用保険料	13,228
	従業員		従業員から預かった源泉所得税	-
流動負債合計			182,510	
2. 固定負債				
退職給付引当金 1			公益目的事業の従業員に対する退職金支払いに備えたもの。	1,789,409
退職給付引当金 2			法人会計の従業員に対する退職金支払いに備えたもの。	198,823
固定負債合計			1,988,232	
負債合計			2,170,742	
正味財産			1,750,819	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用しています。

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、社内規定による期末現在の要支給額により計上しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式により処理しております。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	1,644,000	344,232	0	1,988,232
事業積立預金	800,000	0	800,000	0
合計	2,444,000	344,232	800,000	1,988,232

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
特定資産				
退職給付引当資産	1,988,232	0	(1,988,232)	0
合計	1,988,232	(0)	(1,988,232)	(0)

4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
2016年度研究助成費	(一財)自治労会館	0	500,000	500,000	0	
合計		0	500,000	500,000	0	

5. その他

公益社団法人移行5周年記念事業に使用する目的で事業積立預金を積み立てていましたが、公益社団法人移行5周年記念事業を実行したため目的内取崩しを行いました。

監査報告書

公益社団法人 高知県自治研究センター

理事長 筒井 早智子 殿

私たち監事は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び事務局からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見


(1) 事業報告等の監査結果


- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成29年5月19日

公益社団法人 高知県自治研究センター
監事 國弘 昭 

公益社団法人 高知県自治研究センター
監事 津野 誠 

6. 高知県自治研究センター2016年度会員名簿

団体会員

1	高知県職労
2	高知市職労
3	土佐清水市職労
4	宿毛市職労
5	須崎市職労
6	土佐市職労
7	南国市職労
8	香南市職労
9	黒潮町職労
10	中土佐町職労
11	日高村職労
12	いの町職労
13	仁淀川町職労
14	馬路村職労
15	共済労組
16	仁淀衛生事務労組
17	国保労組
18	住宅供給公社労組
19	建設技術公社労組
20	支援員労組
21	須崎市民保労組
22	高知競輪競馬労組
23	県本部書記労
24	自治労高知県本部
25	連合高知連合会
26	全水道高知水道労組
27	黒潮町
28	防治会

個人会員

1	畦地和也
2	石川俊二
3	折田晃一
4	川田勲
5	川崎敬子
6	坂本茂雄
7	筒井早智子
8	堀洋子
9	山崎秀一
10	山村一正
11	山本晋平
12	山本洋子
13	諸石恵子
14	田尾隆
15	福永明
16	津野誠
17	中山久美
18	森下乃文
19	児嶋鈴香
20	高橋立一
21	中平正幸
22	弘井貴之
23	岡林俊司
24	間嶋祐一
25	金子伸
26	岡崎邦子
27	武内則男
28	竹村暢文
29	田鍋剛
30	中山研心
31	宮本博行
32	森幹夫
33	石井孝
34	関隆
35	矢野佳仁
36	東森歩
37	山下久人
38	國弘昭
39	山中誠
40	西岡信喜
41	大野辰哉
42	山崎幹生
43	森尚子
44	福田善乙
45	横山定子